

感染症週報

令和7年10月6日発行



小笠原での流行状況

第40週（9月29日 から 10月5日まで）

父島 感染性胃腸炎、COVID-19の報告がありました。

母島 特別な感染症の報告はありませんでした。

※ 5例以上発生時に実数報告としています

東京都全体での流行状況

第39週（9月22日～9月28日）

【警報・注意報】

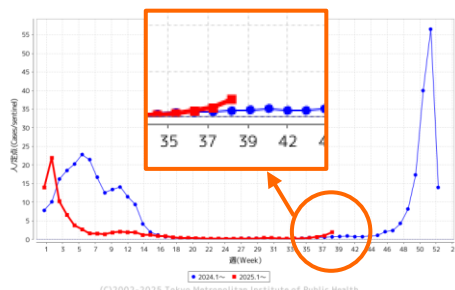
なし

【ピックアップ】

★前週より増加しています

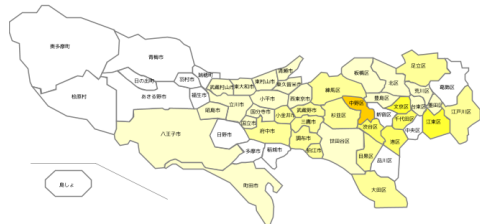
・インフルエンザ

（定点患者報告数 1.96）



(C)2002-2025 Tokyo Metropolitan Institute of Public Health

都内の保健所別定点当たり患者報告数



0.0 1.0 2.0 3.0 4.0 5.0 6.0 7.0 8.0 9.0 10.0 人/定点

感染症メモ

出典、参考： 政府広報オンライン
東京都感染症情報センター

梅毒は「スピロヘータ」というらせん状の細菌による性感染症で、江戸時代には「花柳病」と呼ばれていました。症状が一時的に消えるため「治った」と誤解されやすく、放置すると数年後に脳や心臓に深刻な障害をもたらすことがあります。また、梅毒の血液検査は一部の自己免疫疾患や妊娠、高齢者、ワクチン接種後などでも陽性になることがあり、これは「生物学的偽陽性」と呼ばれ、特にRPR（梅毒迅速反応）検査で起こりやすいとされます。正確な診断には、より特異性の高い検査を併用する必要があります。近年は若年層や女性の感染が増加傾向にあり、母子感染による先天梅毒も問題視されています。コンドームを使っても100%防げる訳ではありません。梅毒は症状がなくても感染していることがあります。特に複数の性パートナーがいる方や感染リスクが高い方は、定期的な検査をおすすめします。心当たりがある場合は早めに医療機関や保健所で検査を受けましょう。

習慣にしよう！

感染予防の基本は手洗い

東京都島しょ保健所小笠原出張所

★保健所では梅毒の検査を匿名で実施しています。是非ともご利用ください。

梅毒の現在地

東京の感染状況のいま



東京で過去最多ペース

東京都内で梅毒の感染が急増中です。今年は、週ごとの報告数が毎週50～90人と高止まりし、過去最多だった昨年(3,482人)を超える勢いを維持しています。

報告数の推移

1～35週の累計報告数は2,616人。若年層の女性で急増しており、10年で15倍となっています。

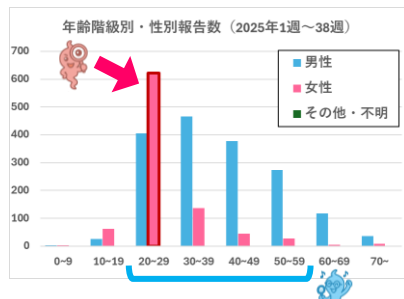
感染者の傾向

潜伏梅毒(感染したものの、症状が全くない、あるいは症状が自然に消失した状態)の報告も増加傾向です。

症状がなくても検査で見つかることが多い！



女性
20代が最多



男性
20～50代中心

予防のポイント

不特定多数との性的接触は避けましょう。コンドームは感染予防に有効ですが完全ではありません。リスクが高い方は定期検査を。心当たりがなければ検査は不要です。早期治療が感染拡大防止の鍵です。